

【緊急提言】“スマホ首”は
スウィングも
劣化させる
あなたの姿勢
大丈夫？

藍さんの言葉
桑本志帆・佐藤心結
若手プロが聞き
学んだこと

WEEKLY GOLF DIGEST ゴルフ ダイジェスト

6/28
2022 No.24
460yen

Jun. 2022 Volume57
Number 24

B・ケブカ、
D・バーガーの母校
フロリダ州立大
ゴルフ部に1泊2日
うるるん密着取材

きっかけは
ASO飯塚チャレンジトーナメント
ダイバーシティ実現
ゴルフ界で考える

50歳

普通の
おじさんが

ある日突然、
飛ばし屋に。

“時間差”すなわち「タメ」を生む
ヘッドスピードUP大作戦

上級者は
「芯センサー」を
持っている
体内感覚を磨くドリル

今週、全米オープン
109年前の
全米OPヒストリー
フランシスとエディの物語

人気急上昇! 木下彩
あやたんの
ペブルビーチ
珍道中

全米女子OP
初出場13位T
「でも、ポテトの
量にはドン引き」

WEEKLY GOLF DIGEST ゴルフ ダイジェスト

8/8
2023 No.30
480yen

Aug. 2023 Volume58
Number 30

スパイクレスの
ソフトスパイク
あなたはどっち?

5つの要素の
組み合わせ
夏ラフから
寄せるコツ

骨盤、動いてる?
腰の回転量でわかる
自分のベストスウィング
by 吉田直樹



今週メジャー
エビアン選手権

堀岡・古江・西村・勝・笛生
渋谷・山下・岩井千・西郷・馬場
日本選手10人出場

バテずにモリモリ
クラブハウス系
冷たい麺選手権

変更から1年
世界ランキングは
どうなった

全米アダプティブ
オープンレポート
障害者アスリートの
ゴルフ追跡



男子優勝 「HCゲームだから、 健常者とも戦える」

(キップ・ポバート、25歳)

障害は下肢の筋肉が固まったりする「脳性麻痺」。「2歳で始めたゴルフ。足の痛みやバランスが取れず、斜面からのショットや飛距離が出ないことに難しさを感じますが、ストレッチやウォーキング、理学療法士のマッサージでカバーします。大会で同じような障害の方に会ったり、年上の方とも楽しめるのがいい。目標はプロになりメジャーな大会で勝ちたい。ゴルフはHCゲームなので、障害があっても健常者に勝てますし、そこにも楽しみを見つけてほしいです」

曲芸プロ! 「挑戦は続けられる。 皆にそれを伝えたい」

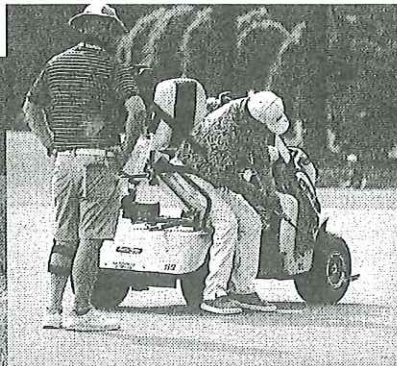
(デニス・ウォルター、73歳)



愛犬“オーガスタ”を45年使う車椅子に乗せてプレーするデニス。Qスクールファイナルまでいったが、下り坂でカートが滑って転倒し脊椎損傷で下半身が不自由になった。「71年に全米アマで11位になったこともあり、PGAでプレーしたかった。もうゴルフはできないと言われたけど、スウィングできるようなシートを工夫したり、挑戦を続けることで今に至る。トリックゴルフショーが仕事になり46年、タイガー・ウッズとショーをすることも多く当初の夢は叶った。皆さんに難しいことはたくさんあるけどムリなことはないと伝えたいです」



車椅子が入りやすいようバンカーの一部をならして改造。車椅子の選手はどこにでもドロップ可。結果的に誰もが入りやすいバンカーに



車椅子でグリーン上にも乗る。同伴プレーヤーのラインを踏まないよう、器用に回して自分の番に打つ。ボールはキャディが置く

世界の障害者ゴルフアートを直撃

Impairment (手の障害)・Intellectual Impairment (知的障害)・Leg Impairment (足の障害)・Multiple Limb Amputee (多肢切断)・Seated Players (車椅子)・Short Stature (小人)・Vision Impairment (視覚障害)の8部門に分けられ、部門別と総合の優勝を男女別に決める。使用ティーは5つで、基本、飛距離から考えられたもの。男子は青、白、赤、女子は赤、紫、黄を使い、障害の度合い(たとえば男子において同じ手の障害でも腕の切断は白、手首の切断なら青といった具合)で決められている。

コース側も運営側も「適応する」精神だ。たとえばバンカーに車椅子が入りやすいよう一部改造し、車椅子プレーヤーのドロップはどこからでもOKに。選手たちの「適応する」工夫はさまざま。道具や用具にこだわったり、大きなショットは義足を外してアプローチは付けてプレーする選手も。練習場では、来年以降の参考とするために、全選手の6Iと1Wの飛距離を計測していた。

障害の種類や度合いは十人十色。公平にするのはとても難しい。しかも真剣勝負の試合だ。それでも「できない」と言うのではなく、試行錯誤しながら「できる」ように努力する。これこそが、アダプティブな精神であり、ゴルフの魅力なのではないかと思った。

PHOTO/Yasuo Masuda

USGA(全米ゴルフ協会)が主催して昨年から始めた。コースはノースカロライナ州にある「パインハーストリゾートNo.6」。来年以降も名門コースからのオファーは多い



全選手、コース(グリーン以外)はカートで乗り入れ可能。地盤の硬さの問題なども大きいだろうが、老若男女誰もが楽しめるスポーツにつながる

若き勝者2人。男子の部はキップ・ポバート(アメリカ)、女子の部はライアン・ジャクソン(アメリカ)。どちらも神経系障害の部



今年2回目の開催となった「U.S. ADAPTIVE OPEN」。USGA主催の障害者ゴルフアートの世界大会だ。アダプティブとは「適応する」意の言葉だが、アメリカでは最近、障害者を表す言葉としても使われる。本大会を通してゴルフの可能性が見えてきた!

障害がある人は「できない」人ではなく、「適応する」は本人にも周りにも必要なことなのだ。本大会は、Neurological Impairment (神経系障害)・Arm

「できない」ではなく「できる」へ! U.S. ADAPTIVE OPEN アダプティブ オープンに 学ぶこと



優勝選手を18番グリーンで迎えるボランティア。総数約460人。全米47州から参加しているが、地元ノースカロライナの方が多い

練習グリーン横には、選手のカート置き場があり、また練習場の自分の打席のすぐ後ろまでカートで入ることができる

コース内の住人が掲げたと思われる看板。「あなたができる限りの最高の自分になる」「ベストを尽くせ、それは達成できる」。選手たちが嬉しそうにサインしていた



片腕でしこの挑戦!

「ゴルフを始めて、 社会に出られるよう なっただんです」

片倉郁江(左上腕切断、52歳)

今回初出場の片倉郁江は、夫でキャディを務める片倉靖弘とともに夫婦でアメリカにやってきた。試合前、郁江は、「ホシマにプレッシャーは半端ない。でもせっかくここまで来させてもらったんで楽しんでいい結果が出せたらいいなと思います」。靖弘は「日本障害者ゴルフ協会(DGA)ではボランティアで参加していますが、キャディは初めて。僕はやってはダメなことを教わりながら、お母さんには普段の伸び伸びゴルフをしてもらいたい」と語っていた。



選手バッジを手に。「ゴルフはいろいろな年齢の方と楽しめる。失敗も楽しい。次はこうしようなどと、いろいろと考えられますから」



どうなってしまうんだろうと不安はありましたけど、目が覚めたときは、受け入れていた自分がいて落ち込みはなかったんです。しかし、靖弘はショックを受けた。「どうなるんやろう、何をしたらいいんやろう……とね」。

後天的な障害を自分のなかに取り入れることは簡単ではない。生活していくうちに次々と大変さを感じるようになる。「やはり、不便で。子育てもやっぱり大変で……ごめんなさい。思い出すと泣けてくる」と、郁江は涙を浮かべながら言葉を続けた。

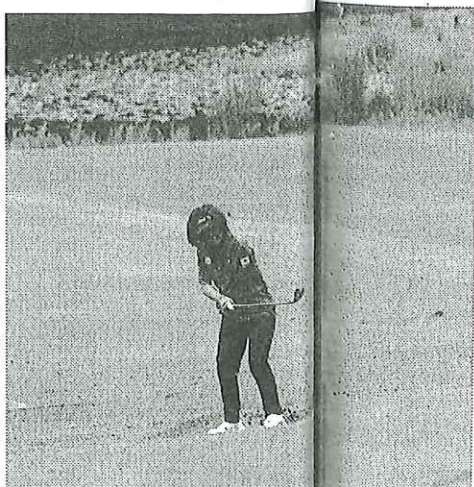
「できることを探してはいました。ネットなどで調べて障害者ゴルフがあることも知っていたんですけど、周りにゴルフをする人がいなかった。それにやっぱり、自分のために時間をかけるといふ気になれないし、お金もなかったし」。

靖弘には「10年くらい、闇のなかに潜んでいる」状態に見えた。しかし44歳になったとき、ふとゴルフを始めたのだという。

「引きこもり気味になっていた時期があつて……『何かせん』と思つて、とりあえずおじいちゃんのクラブを持つて、主人に付き合

「片手なので、 波はあります」

中学時代軟式テニス部だった。「テニス打つて言われます。課題はバタ。一番精度が必要で。体力をつけるため、家で筋トレなどを行い、ジムにも通うように」



両手がある人には理解できないことも多い。そんなとき工房を営む「おじいちゃん」ティーチングプロが声をかけてくれた。

「『頑張りなはれ』と。小山田(雅人)さんのDVDをくれて。こんな人がおるんや、と思いました」

小山田は、義手でPGAの障害者プロとなった第一人者だ。今大

会にも参加している。

「DGAに入るきっかけは小山田さんの追っかけです(笑)」(靖弘)

すぐに、千刈CCで開催された障害者のゴルフ大会を観に行つた。

「小山田さんですが、車椅子の



25歳の所帯し言に2人。出身は大阪。息子はすでにゴルフを立って、息子は僕らを立ててくれる(靖弘)

「お父さんがキャディで、パラリンピックが目標でした」(文江)



方などもたくさん居て、皆気さくで明るい。ちよつと衝撃的でした。ここに来たいなあ(郁江)

「観に行つて3時間くらいしか経ってないのに、この場でやりたいと言ひ出して(笑)」(靖弘)

そこから練習を重ね、初ラウンドは140。その後、すぐにDGAの試合に出るようになる。元来目標を持つことが好きな郁江。

「ゴルフをして、自信を持てて笑顔が増えましたね」(靖弘)

夫には感謝していると妻。よく口に出して伝えるという。「申し訳ないですけど、有難いですね。お父さんはやさしい。でもスイッチが入ると怖いかな(笑)」



「言うのは恥ずかしいんですけど、めっちゃ大きな目標は、私がパラリンピックを目指すから、お父さんはキャディで、と言つて(笑)」

夢は叶えるためにある。DGA代表の松田治子から、アダプティ

ブオープンへ推薦出場の打診がきた。女性はまだ競技者が少なく出場のチャンスがあるから、ぜひ出てみないかと。郁江のベストスコアは90。当初は迷つたという。

「まだそこまでの実力やないと思つて。でも2人で話し合つて、来年どうなるかわからへんし、3月頃に決めました。ちよつと早まったかなと思ひましたが(笑)」

パラリンピックではないが、世界大会への参加。大きな目標に近づいた。新婚旅行のハワイ以来の海外旅行となった。

郁江は、ゴルフがイヤになったことはない。ただ、今も自分がゴルフをしていいのか考えることはあるという。靖弘から見た妻は、控えめな性格で「何もかも引け目に取りがち」だという。

「でも、ゴルフがきっかけで社会に出られるようになったんです。やっぱりずっと自信がなかった。

「何事もやってみないと始まりません」

藤井久隆氏
(麻生飯塚ゴルフ倶楽部支配人)



プロゴルファーでPGAの役員も務めていた藤井支配人。「ツアー開催の話が出てきたのが約1年半前。正式決定は昨年末です。トーナメントはこうあるべきというのにはわかっていても、そこに向かうのはすごく大変。障害者とのプロアマもお子さんたちのイベントも、すごいことをやる気になったと思いました。でも麻生グループ全体で取り組んでいること。幸いPGAの副会長のとき、若洲GCで障害者ゴルフのイベントを経験。全盲のゴルファーが上手くボールを打つことに驚きました。また、以前いたコースでスナッグゴルフの経験もある。ゴルフを知らない人にはいいですね。まず第1回目はできることからスタートしよう。何事もやってみないと、話だけでは進みません。そして実際に携わった人間たちでどこが大変か理解し変えていけばいい。トーナメントをやる意義は、スタッフが自分たちの思いを実現しようという意識が生まれること。それが財産です」

「障害者ゴルフは励まされるものです」

松田治子氏
(日本障害者ゴルフ協会代表理事)



日本障害者ゴルフ協会は今年で26年目を迎え、500名程度の会員、主に肢体不自由者で活動しています。皆さんによく「障害者ゴルフってどうなの」「車椅子って大丈夫」「プレーが遅いのでは」などと聞かれますが、そんなことはない。もちろんリハビリ中の方もいたり、ゴルフのレベルも状態もさまざまですが、障害者ゴルフはジメジメ暗いものではなく、いつも明るい笑顔で励まされたり元気をもらいます。今回、選手たちが予想以上に喜んで「すごく楽しかった」と。プロの皆さんも喜んでくれたようですし、障害者ゴルフを知っていただく機会になりました。来年の開催もぜひ期待します。また、7月にUSGA主催の「アダプティブオープン」に吉田、小山田、小林が出場します。実質の世界大会です。パラリンピックへのゴルフ競技採用の足掛かりになるといいなと思っています。

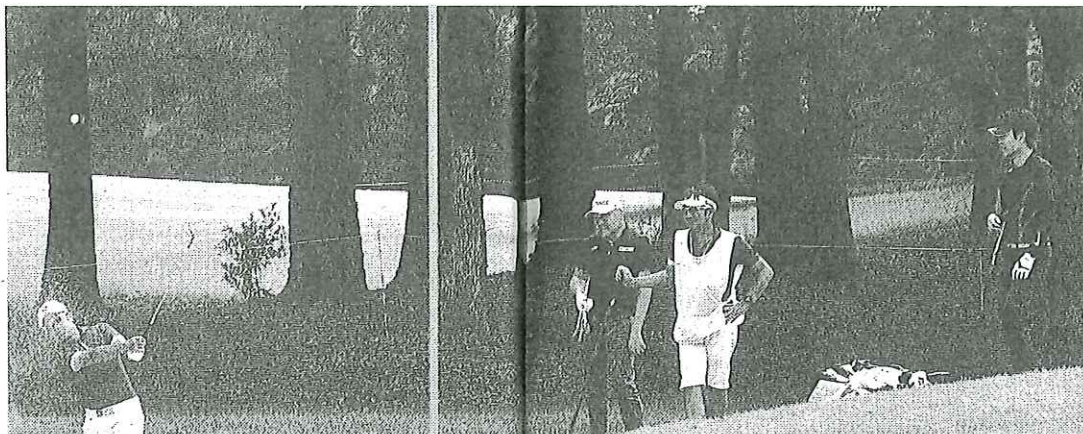
い」。阿久津は今回参加できた感謝を口に、「本当にお上手。上から目線みたいですが人間的にもすごく明るい方たちで。僕らが学ぶことが多い。「キャディさん目土したほうがいいですよ」とサラッと言うのですが、本当は僕らプロが言うべきですね。当たり前

のことを言うのは簡単ではない。きつと普段の生活では当たり前前のことだから当たり前じゃないんですよ。だから心構えも違うんだと思います。楽しくピリッとした感じが締まったラウンドでした。

「市原組」の山崎立也さん(44・右下肢機能障害)は「こんな機会を増やしてもらえたら障害者ゴルフを認知してもらえ。障害者というだけで一括りにならないことが伝わるといいです。市原はこの日もニコニコしながら、「皆さんお上手。ゴルフに対して真剣で楽しまれて。こういうラウンドはいいですね」。

「プロのショットは音が違います!」(中村さん)
中村哲也さん(38・右下腿切断)は「初めてプロと回りました。アイアンのモデルは一緒なのに球筋が違います(笑)」。市原は「僕なりに教えたことをすぐ自分のなかに落とし込んで上手くやってくれるのも素晴らしい」

「中西組」の元木健二さん(45・右下腿切断)は、「中西プロは技術からトク力まで最高! こういう機会は広がってほしいです」。「比嘉組」のとにかく明るい有田隆志さん(43・左上肢機能障害)は「比嘉プロ、今乗ってる感じがしました。明るくて接しやすくて僕らのプレーに「感動した、鳥肌が立った」と言ってくれた。トレーニングなどプロの日々の過ごし方を聞けてよかったです」。比嘉は、「左手1本で240Y飛ばしていて衝撃を受けた。受ける質問も戦略など競技ゴルフのものがばかり。向上心があってポジティブで本当に楽しそうにゴルフをします。その気持ちを僕らもいつまでも忘れてはいけないと思います」。



「2人のバンカーショットに鳥肌立ってホームラン(笑)」
(比嘉一貴)

17番のバンカー事件。グリーン右のガードバンカーからの50Yショット。障害者ゴルファー2人が1m以内に付けると、比嘉のショットはホームラン気味に。「先に打ってあげば」と悔しがっていました(有田)



「プロのショットは音が違います!」(中村さん)

中村哲也さん(38・右下腿切断)は「初めてプロと回りました。アイアンのモデルは一緒なのに球筋が違います(笑)」。市原は「僕なりに教えたことをすぐ自分のなかに落とし込んで上手くやってくれるのも素晴らしい」



「感覚が研ぎ澄まされているんですね」(稲森佑貴)
稲森は障害者ゴルファーに感心しきり。「めっちゃくちゃ上手い。感覚が研ぎ澄まされているの。なんというか、もうびっくりします。距離も出るし、大きなミスが少ないですね」

「当たり前前のごことが当たり前前じゃない。多くの心構えを学びました」

(阿久津)

「池田組」の18歳の大学生、寶門洗太さん(下肢障害)は「プロは球の初速、軌道がすごい。1番は左フェアウェイギリギリに落ちて残り160Yだったんです」と興奮気味。世界障害者ゴルフランク49位の小林茂さん(66・左下肢障害)は「それにしても飛びます。怖そうなイメージでしたがそうでもないです(笑)」。

「秋吉組」の伊藤寿さん(47・右下肢切断)は「ベストボールなのでプレッシャーがなく、連続パディが取れた。技術は教えてもらってもできない領域です(笑)」。大岩根正隆さん(41・右上腕切断)は「目の前でプロのショットを見せられて一生の宝。本物の直ドラも! ポップ球がやばかった」。秋吉に感想を聞くと「マジで上手い! パットもショットも、激うま!」と叫んで去っていく。



「勇太プロ、多くのヒントをくれました」(小林さん)

池田のアドバイスは効果抜群だと小林さん。「僕は肩がしっかり回らないのでコツを聞いたら、クラブを上げるときコックが早すぎるのと、ゆっくり左肩を入れるようにしろ!と教えてくださいました」

「感覚が研ぎ澄まされているんですね」(稲森佑貴)
稲森は障害者ゴルファーに感心しきり。「めっちゃくちゃ上手い。感覚が研ぎ澄まされているの。なんというか、もうびっくりします。距離も出るし、大きなミスが少ないですね」



「意外とニコやかでした」(寶門)
寶門洸太さん・池田勇太さん・小林茂さん



「2人ともマジで上手い!」(秋吉)
秋吉翔太さん・大岩根正隆さん・伊藤壽さん



「最高に楽しかったです」(小山田)
堀川未来夢さん・山本篤さん・小山田雅人さん



「向上心高すぎです」(比嘉)
有迫隆志さん・比嘉一貴さん・林剛和さん

先週行われた国内男子新規大会。大会名が気になった方もいるのでは? 「チャレンジド(the challenged)」とは「障害を持つ人」を意味する。熱戦の前日に行われたイベントをレポートしながら、ゴルフ界のダイバーシティを考えてみたい。

ASO飯塚 チャレンジド ゴルフトーナメント が体现する

壁のないゴルフへ!

「チャレンジド」とは「挑戦するチャンスや使命を神様から与えられた人」を語源とし、障害者を「与えられた使命を持ち何事にも挑戦する人」としてポジティブにとらえた言葉だ。

快晴の空の下、堀川未来夢が「本大会名にはチャレンジドとあり、挑戦者という意味もあります。僕たちにも必要な言葉であり、今日は皆さんとのラウンドで得られるものがあると思うので楽しみにしています」と挨拶。世界障害者ゴルフフランク43位、PGAティーチングプロ資格を取得したばかりの吉田隼人さん(39・右大腿切断)による始球式が行われた。

※USGAとR&Aが設定「WR4GD」
(22年6月9日現在)

PHOTO/Yasuo Masuda

「技術も話術も勉強になった」(元木)
元木健二さん・中西直人さん・秋山卓哉さん



ASO飯塚ゴルフトーナメント

麻生グループ

「僕より飛んでる!?!」(時松)
吉田隼人さんの始球式の球を見て、一同呆然



「プロの面目を保った……」(時松)
ゲンちゃんもナイスショットでスタート!

「とにかく勉強になった」(吉田)
時松隆光さん・吉田隼人さん・小須田潤太さん



「さすがの曲がらない男!」(浅野)
浅野芳夫さん・稲森佑貴さん・山之内博之さん



「ゴルフに対して真剣!」(市原)
市原弘大さん・中村哲也さん・山崎立也さん

刺激し合い、学んだ1日でした

「ただただ、すごい技でした」(中西)
村田信廣さん・関藤直照さん・中西義則さん

「阿久津プロ、ナイスガイ!」(伊東)
荒井幸治さん・阿久津未来也さん・伊東英二さん

